

禁煙のすすめ タバコは、肺がんだけでなく膀胱がんのリスクにもなるんです！

文 佐々木 裕

text by Hiroshi Sasaki

みなさんこんにちは。今回は、膀胱がんなど尿路にできるがん、尿路上皮がんと喫煙についてのお話です。

肺がんになるのでタバコをやめました。こんな方がいると思います。喫煙は肺がんのリスクとなるため、これは正しい選択と考えます。実は、喫煙は肺がんだけでなく、膀胱がんなど、尿路上皮がんのリスクファクターにもなるんです。

尿路上皮がんとは、尿の通り道にできるがんで、部位により膀胱がん、尿管がん、腎盂がんなどと呼ばれます。喫煙は、尿路上皮がんのリスクファクターの一つです。

では、なぜ、喫煙は、尿路上皮がんのリスクファクターとなるのか？

タバコの煙の中にある発がん物質は、肺から体内に吸収され、全身を回った後に、濃縮され尿中に排泄されます。尿路上皮の粘膜が慢性的に発がん物質に暴露されることによりがんが発生すると考えられています。

尿路上皮がんは、血尿で見つかるこ

とが多いですが、なかなか早期発見が難しいがんです。早期の膀胱がん（表在性膀胱がん）では、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）が行われます。

麻酔下で細い膀胱鏡を挿入して内視鏡的に腫瘍を切除する手術が行われます。早期のがんは、すぐに命に影響する可能性は低いですが、手術後も3〜6カ月おきに外来で尿道から膀胱内に内視鏡を挿入する検査が行われます。また、進行性の膀胱がん（浸潤性膀胱がん）になると、膀胱全摘除術という膀胱をすべて摘出する手術が行われます。膀胱がなくなると尿がたまるところがなくなるため、尿路変更術という腹部にストーマをつける手術や小腸で人工膀胱を作成して尿路再建する手術が行われます。こうした検査や手術は、非常に負担が大きいものです。膀胱全摘手術となり、後から後悔する患者さんも多いと思います。

タバコが、尿路上皮がんの大きなリスクファクターであることは間違いありません。先日、こんな患者さんがいました。「私は50歳で禁煙しました」これまでの蓄積があり、これで影響が

口になるわけではありません。それでも禁煙することには、意味があると思います。

がんを専門的に診る一泌尿器科医として、尿路上皮がんにならないためにも強く禁煙を推奨します。喫煙は、肺がんだけでなく、膀胱がんなど尿路上皮がんの発がんに大きく影響します。禁煙により、一人でも尿路上皮がんの患者さんが減ることを切に願っています。

Profile

医療法人社団 SASAKI CLINIC 理事長
佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US 前立腺融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。日帰りの前立腺生検や放射線治療前のスパーサー挿入などにも力を入れている。

